

三里塚・ジェット闘争貫徹ノ「国鉄35万人体制」粉碎ノ

4.15への不当介入 選別的な不当処分策動を許すな

戦闘宣言

あえて泥沼をもち辞さず
断固として闘いぬく。



全組合員のみなさん。四月三十日、動労千葉闘争委員会は重大な決意をこめて、戦闘宣言ともいうべき『声明』を発した。それは、「本部」反動分子による四・一五津田沼スト破壊暴力襲撃に対する断罪であり、同時に、この暴力襲撃をあらかじめ容認し、利用して動労千葉破壊を組つた選別的な不当処分攻撃を面策する国鉄当局に対する弾劾声明である。



全組合員のみなさん。

「本部」反動分子が「千葉地本再建」の破産と行き詰まりによる焦りから、動労千葉の八〇春闘決戦ストを破壊すべく暴力スト破りを行い、動労千葉の怒りの反撃によって粉碎されるや、「千葉動労が襲撃した」などの白を黒といいくるめる破廉恥なデッチ上げをもって国鉄当局に「処分弾圧要請」を哀訴しているのだ。こんな腐り切った卑劣な行為を許せるのか！そして、国鉄当局がこの「本部」反動分子の暴力を容認し、選別的な不当処分を強行せんとしていることを許せるのか！断じて否である。かかる極悪反動ともいふべき行為を徹底的に粉碎し尽すまで断固闘い抜く体制を築こうではないか。

動労千葉闘争委員会は、ここに満腔の怒りと重大な決意をもって、「本部」反動分子のスト破り暴力襲撃を口実とする不当処分攻撃粉碎の闘いの最先頭にたつことを宣言する。

不当処分攻撃の本質

今回の「本部」反動分子の策動は、運動的・路線的破産の現実を塗りかくすために、動労千葉の八〇春闘決戦ストを暴力的に破壊しようとする目的で行われたものであり、その策動が粉碎されるや権力・当局の手をかりて動労千葉破壊を行おうとするものである。

当局は、「本部」反動分子の哀訴路線を利用し、三十五万人体制攻撃粉碎の闘いと結合した三里塚・ジェット闘争を闘う動労千葉の戦闘性を破壊せんとする焦りから、不当労働行為を承知の上で選別的な不当処分攻撃に出たのである。つまり、三十五万人体制合理化の初年度である「五五・一〇」、ジェット燃料貨車輸送期限切れの「五六・三」にむけての権力・当局・「本部」反動分子一体となった予防的弾圧・組織破壊攻撃なのである。

反処分・組織破壊攻撃粉砕闘争の体制を築け！

われわれは「本部」反動分子による四・一五津田沼襲撃と、当局による不当処分攻撃が、動労千葉への攻撃だけでなく、「三里塚」、「反合」を軸にした戦闘的労働運動全体への攻撃であることをはっきりとさせ、広く支援・連帯を求める闘いを展開してゆかなければならない。

すでにこの事態の本質を正しく認識した三里塚・芝山連合空港反対同盟は四月二十四日、「動労革マルの四・一五動労千葉襲撃を弾劾する」声明を発表した。また動労ジェット闘争支援共闘会議も「動労本部のスト破り襲撃とこれと一体化した当局の動労千葉への処分策動を弾劾する」声明を発し全国の闘う労働者・人民の闘いへの決起をよびかけている。

四月三十日、動労千葉は断固たる闘いを開始する決意をこめた「声明」を発するとともに、労働省及び千葉の記者クラブにおいて、当局と「本部」反動分子の癒着の実態と、その反動的本質を社会的に明らかにし、動労千葉の闘いへの決意を記者発表した。

全組合員のみなさん。
いま、動労千葉の当面する最も重要な課題は、闘争主体であるわれわれが、怒りも新たに当局・「本部」反動分子一体となった理不尽な攻撃との闘いに泥沼化を辞せず闘う体制を築くことだ。
不当処分策動を許さず直ちに反処分・組織破壊攻撃粉碎闘争への決起体制を築こう。

(裏へつづく)

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉砕せよ！



勤労革マルの、四・一五津田沼襲撃を弾劾する！

（三里塚・芝山連合空港）
（反対同盟、事務局長）北原鉦治氏

ただいま紹介にあずかりました反対同盟の北原です。ジェット燃料の全列車をも完全にとめて、勤労千葉の八〇春闘決戦ストが、いよいよ明日から闘われる訳ですけれども、さきほど勤労「本部」の革マル破壊分子二百名が、闘いの最先頭で闘っている勤労千葉の青年部の諸君に対して、投石と竹竿で襲撃しけがを負わすという状況が発生しました。われわれは勤労千葉と共に闘ってきた十四年間の闘いの歴史にふまえて見ても、こんな悪らつな破壊行為を絶対に許すわけにはいきません。

今日の彼らの行動こそ、闘争破壊集団としての彼らの反動的な本性を満天下の人民に明らかにしたものと、徹底的に弾劾していかなければならぬと思います。反動的な分子がどんなに焦って数をたのみに攻撃をしかけてこようとも、正義を守って、千四百名の皆さんが固く結束して闘いぬくならば、必ず勤労千葉は、そして闘う人民は、勝利を勝ちとるであらうという事を確認したいと思えます。



革マルが送りつけた「黒く」封筒

八〇年三月三十日、三里塚現地において労働学の総決起集会が開催されました。一万八千名におよぶ人々が全国から三里塚現地に結集して、勤労千葉との共闘を更に強くなり固めました。三里塚でも、革マル反動分子は、反対同盟の人々に対して、実に卑劣な脅迫の電話や手紙を送りつけ、闘争をブチ壊そうと必死で攻撃をかけてきています。

私や他の反対同盟幹部宅に、なんと、黒ワケ付きの封筒を送ってよこし、「戸村が死んでおめでと。次はお前の番だ」などと、全く許せない政府・公団の手先としてたちあらわれています。しかし、私たち反対同盟もそれを断固としとはねのけ、よけいに闘志をもやして闘っています。一月三日、このような反動分子である革マルを弾劾し、全国の職場・学園・地域から完全一掃すべきことをよびかけた「声明」を反対同盟は全国に発しました。

先日の佐倉支部の結成という画期的な成果にもはつきりと示されておりますますよりに、今日、勤労千葉の闘いは着実に組織強化拡大をかちとると共に、全国の労働者に大きな共感をよび、支援・共闘の輪はどんどん拡大されてきております。革マル派はこういいます。「なんで労働者が百姓農民と一緒にやらなきゃならんのか！」と、こういうことを言っておりまます。そんな事は、はっきりしていません。労働者と農民が結合した闘いを組まない限り、われわれの勝利はないからです。十五年間の反対同盟の闘い、そして、また、ジェット闘争を通しての勤労千葉の労働連帯の闘いの足跡がその勝利を示しております。

勤労革マル分子の今日の卑劣な破壊行為の実態と、それをはねのけて、みなさん方が力強く春闘決戦に立ち上っていかれたことを、反対同盟は全国に呼びかけ、勤労千葉を支え、闘っていく決意を明らかにしたいと思います。

三里塚現地も、二期工事阻止にむけて、「空港廃港」への道をますます力強くかちとってゆくつもりです。五月二五日の三里塚現地大集会には、ここに結集された全ての皆さんがかけつけて来て下さるよう心から訴えるものであります。今日は、私のほかに、実行役員の石井武さんと、敷地内を代表して石毛常吉さんの三名で同盟を代表してここにかけつけてきました。どうか最後まで勤労千葉の皆さん闘いぬいて下さい。正義は必ず勝つ！革マルを粉砕して、われわれは勝利をにぎろうではないか！ あいさつをおわります。

勤労千葉が弾劾声明

先月15日の
津田沼事件 当局の処分を想定

勤労千葉（労働学）は三里塚現地において、労働学の総決起集会を開催し、一万八千名におよぶ人々が全国から三里塚現地に結集して、勤労千葉との共闘を更に強くなり固めました。三里塚でも、革マル反動分子は、反対同盟の人々に対して、実に卑劣な脅迫の電話や手紙を送りつけ、闘争をブチ壊そうと必死で攻撃をかけてきています。

凶した武装警察でもはるかに許せぬ。勤労千葉が努力をこらしたと事実を述べ、正式審問で「勤労千葉処分せよ」と当局に申し入れている。労働学は、労働学を名とする勤労本部の今日の姿である。また、四里塚は本部の意向を承知でこれを否認して闘い抜く」と不気味な「飛脚」